

「はい、トヤマ商事でございます」

「もしもし、カガワ製作所の近藤と申します。いつもお世話になっております。恐れ入りますが、企画課長の高橋さんはいらつしやいますか？」

「申し訳ありません。高橋はただ今、会議で席を外しております。五時頃には終わる予定となっておりますが」

「それでは、五時頃もう一度こちらからお電話いたします。高橋さんがお戻りになられましたら、来週火曜日の打ち合わせの件で電話があったとお伝え願えますか？」

「失礼ですが、お名前をもう一度お願いいたします」

「カガワ製作所の近藤と申します」

「カガワ製作所の近藤さんですね。私、塚田と申します。高橋が戻りましたらカガワ製作所の近藤さんから、来週火曜日の打ち合わせの件でお電話があったと申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

塚田は電話を切ると、今日中に提出しなければならぬ企画書の作成に取りかかった。しばらくすると、再び企画部の電話が鳴った。今度は隣の席に座っていた菊地知佳が急いで受話器を取った。

「はい、トヤマ商事でございます。あ、こちらこそお世話になっております。はい、少々お待ちください」

菊地は電話を保留にすると、塚田に取り次いだ。

「塚田さん、カガワ製作所の近藤さんという方から一番にお電話です」

「お電話代わりました。塚田です」

「もしもし、先程お電話いたしましたカガワ製作所の近藤と申します。お忙しいところ度々申し訳ありません。先程の電話で、五時頃に高橋課長に電話をおかけすると申し上げましたが、急な用事はいりまして、これから栃木へ行くことになったんです。戻りは早くても明日の夕方になる予定ですので、誠に申し訳ありませんが、栃木から戻り次第こちらから改めてお電話させていただきます。高橋課長によるしくお伝えください」

「わかりました。申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

五時になると会議が終わり、席を外していた高橋がデスクに戻った。

「課長、お疲れ様でした」

「ああ、ご苦労様。私に何か連絡は？」

「はい、一件ありました。カガワ製作所の近藤さんから来週火曜日の打ち合わせの件で電話がありました。今日これから緊急で栃木へ行くことになったので、戻り次第連絡することでした。課長によるしくお伝えくださいと言われました」

「そうか。ありがとう」

塚田は伝達を終えて一息つくくと、後片付けをするために会議室へ向かった。